

【調査項目ごとのポイントと思われる点（各事例から抜粋）】

■活動のきっかけ・経緯

活動のきっかけから、その後の経過について、参考になるとと思われる事例を紹介します。

②佐倉子育て応援団

○市の“子育てリーダー養成講座”受講メンバーが、その後もつながりを持とう！と立ち上げたゆるやか～なネットワークで、その後、「佐倉子育てカレンダー」を作り始めた。

③なごみ会

○栄町町内会の有志により、この町に住んでよかったと言えるような町をみんなで築いていくことを目的として発会し、サロン形式で情報交換をするなど、13年活動が継続している。

⑤染井野ふれあいサロン

○地域の在宅福祉支援活動を立ち上げた中、四街道市のサロンを見学し、発足した。年1回、大型バスを借りての「お出かけサロン」と「もうひとつのサロン」も開催している。

⑥いきいきクラブたぐり

○臼井台地区の防犯パトロールをきっかけに結び付いた4町会の有志と民生委員が、家に閉じこもりがちになる高齢の方が集まれる場所づくりをしようと呼びかけて活動が始まった。

⑦佐倉市手をつなぐ育成会

○「障害のある子ども達がいきいきと暮らせるように」という思いから、順天堂大学と佐倉市の協力を得てスタートし、学生ボランティアなど、様々なボランティアの方が協力している。

③佐倉地域包括支援センター

○「佐倉ふるさと体操」の普及にあたって、毎朝体操に取り組み始めたが、興味を持った近所の高齢者が、次々に参加し、仲間同士の散歩、見守りやゴミだしの手助け等の支援に発展した。

④笑いヨガ・ミュージック

○楽器の練習グループで、様々な音楽を得意とするメンバーが自然と増え、グループとしての活動を思案する中、高齢者施設などを訪問した取り組みから、活動が始まった。

⑤志津ふれ愛センター・しづっ子クラブ

○7カ所の志津地区社会福祉協議会の100円喫茶の中で、常設の喫茶（サロン）をという声から、支え合いサービスとともに始まり、現在は、こども食堂と学習支援も運営している。

■ポイント・工夫している点

各団体、様々な工夫をしながら活動をしている中で、特徴的と思われる事例を紹介します。

①西志津スポーツ広場の会

- 毎朝の挨拶が、ラジオ体操以外の場で会っても挨拶が交わされるように。
- いつも来ている人がいないと、入院等に気づいたりする。
- 小学生の頃に参加していた子が高校生になって、挨拶してくれる。
- 誰でも、一人でも参加できる。何の制約もない、自由な活動として誰でも受け入れている。

②佐倉子育て応援団

- 緩やかなネットワークとして活動。自分が楽しいと思ってできることを。
- 加入団体の活動を毎月一つにまとめた子育てカレンダーの作成。保育園の園開放や、児童センターのイベントなども広く掲載し、公共施設、小児科病院や産婦人科、薬局にも配布。
- メーリングリストを活用し、団体の活動予定などを配信し、周知、活動協力などを呼びかけ。

③なごみ会

- 会での付き合いを、ご近所の見守り、支え合いにも役立てている。
- 日々の生活のモチベーション維持にもなる。支える側でも、いずれ支えられる側になるという意識が芽生えてくる。
- 「助けられ上手」になるということ。

④根郷地区民生委員・児童委員協議会

- 子どもと危険箇所地図を作るなど、見守るだけではなく、子どもの成長を促すことも必要。
- 学校側とも信頼関係が構築され、連携のとれる関係性が構築できた。
- 地域ぐるみで保護者も巻き込むことができる。
- 子どもたちにも生まれ育った「ふるさと」への愛着や地域を大切にする気持ちを。
- 「つなぐ」ということを意識し、活動により結びついた人たちにより、新たな活動が始まる。
- 活動は、無理せず楽しむことが大切。任せたことに対しては、信頼してすべてを任せるように。

⑤染井野ふれあいサロン

- 得意な分野で関わってもらう。無理をしないで続けるというのが一番大切。自分達も楽しむ。
- 1人で来た方も自然と友達になれるのではと、手作りコーナーが始まった。
- 毎月の展示コーナーは18年経っても、新たなご趣味の展示者が見つかる。

⑥台町子ども見守り隊

- 「無理せず、楽しく」をモットーに自主的参加を何年も続けている。

- 小学生だった子どもたちが中学生、高校生、大学生、社会人になっても挨拶を交わしてくれる。
- メンバー同士だけでなく、地域住民とのつながりも増えてくる。人とつながることの面白さ、活動の楽しさ、やりがいを感じ、自分にとっても欠かせない活動へととなりつつある。
- まちのために少しでも貢献しようと、他の地域活動にも関わってみようという人も出てくる。
- 「臼井台地区防犯パトロール」を結成し現在に至っている。
- 中学校の草刈り・剪定作業のボランティアにも、多くの方が参加している。

⑦佐倉市手をつなぐ育成会

- それぞれに合った体の動かし方で楽しく参加できるように。色々な障害の方を自然に受け入れている。
- 大学の学生ボランティアも一緒に活動し、多くの人の関わりの中で楽しめる活動にしている。
- 活動を通して、楽しい、外部の人に理解してもらったことが嬉しいという気持ちを持てるようになり、地域生活でも自分の気持ちが出やすくなる。
- 人と触れ合う喜びがある。普通にただ子供達と触れ合うという感じで来ている。

⑧ねっこの会

- 学習支援だけでなく、子ども・保護者の「居場所」づくりに繋がることも意識している。
- 保護者も地域でコミュニケーションを取れる人がいることで、生活に自信が持てるように。

⑨佐倉地域包括支援センター

- 地域の方々の理解と協力を得ることが必要。
- ①地域の現状を知る。②顔の見える信頼関係。③地域のリーダーとなる人材と出会う。
- ④既存の組織の賛同を得る。⑤負担のないやり方で行う。(黒子となって支える。)

⑩笑いヨガ・ミュージック

- 新しいメンバーを受け入れ、繋がりを大切に。
- メンバーは参加したいときに参加する、休むときも連絡は必要ない。
- 施設の職員と参加している人、障害のある人もない人も、1人暮らしの人も、楽しく集える時空を共有。何かのイベントがあれば、そういう場での活動も行っている。
- 人に楽しんでもらうには、まず自分たちが楽しみたい。一緒に楽しむという気持ち。

⑪志津ふれ愛センター・しづっ子クラブ

- 来店して、楽しそうだから手伝いたいとスタッフになってくれた人もいる。

⑫佐倉市こおろぎの会

- 年度初めに年間録音予定表を作成、各自が仕事などの日程を調整して録音日を確保している。

■事例調査後の新たな動き

当初のヒアリング調査後の新たな動きとして、参考になると思われる事例を紹介します。

②佐倉子育て応援団

- 子育てカレンダーに掲載してほしいという団体があり、6団体ほど新たに加わった。
- <森のようちえん>（自主保育活動）が入会。若いママたちの活動を応援できたらと思う。

③なごみ会

- 会員のほとんどが後期高齢者になり、支援が必要となってきた。
- 「声かけ」「見守り」「支援（話し相手・相談等）」において、会員同士で解決できるようにし、物忘れの進行した方の話し相手となり、寄り添いながら支えとなっている。また、ひとり暮らし・高齢者世帯への相談及びアドバイスをを行い、地域包括支援センターなどにつないでいる。

④根郷地区民生委員・児童委員協議会

- 「朝のあいさつ」を続けることで、子どもだけでなく、保護者とも顔の見える関係が出来てきた。
- 先生方と会う機会が多いので、学校との信頼関係もでき、日頃から情報交換が出来る。
⇒学校の行事へのお手伝い（校外活動の安全見守り）等、気軽にお問い合わせ出来る関係ができた。
⇒わざわざ学校に出向くというより、日頃から気付いたことを言える関係（早期解決）。

①ねっこの会

- 学校や学童等からの紹介により、対象人数が増えた。
地区民児協だより等にも掲載し、スタッフを募集。
- 「ねっこの会」の説明に学校や学童に伺った。学校では、職員会議で心配な児童について検討し、親からの学習に対する相談により紹介があった。
- 児童青少年課からも何人か「ねっこの会」を紹介し、親子で見学後、参加された。
- 民生委員・児童委員が関わっている準要保護・保護世帯等に声かけして参加に繋がっている。
- 学習支援を続けていく中で、「子ども食堂」について検討し（根郷地区民児協・社協、愛光）、平成30年度4月から「ねっこ食堂」をオープン。
- 児童青少年課や社協から相談を受け「ねっこの会」をスタートした。また、子どもの貧困や居場所づくりとしての子ども食堂の必要性について、「ねっこの会」を立ち上げた民児協、学童の指定管理者である社会福祉法人「愛光」と児童福祉事業の地区社協が1年間（3、4回）会議を行った。
県内の子ども食堂を視察し、場所（規模）、スタッフ、対象者、予算面等を検討した。

③佐倉地域包括支援センター

- 他の地域包括支援センターにも同様の取り組みが広がった。

■地域への活動の輪の広がり

各団体の活動が地域へ輪の広がりを見せる中で、参考になると思われる事例を紹介します。

③なごみ会

○活動が少しずつ浸透している。「声かけ」「見守り」等を心がけるようになってきている。

④根郷地区民生委員・児童委員協議会

○近隣の住民が、バスで登校する子ども達を学校まで見送ったり、横断歩道で旗を持って安全指導をしている。

○各地区で下校の安全だけでなく、朝の安全を見守る活動が地区で増えてきた。

○朝のあいさつ運動をしながら、学校の周りや校内清掃をしているが、私たちの月曜日の活動以外にも、桜並木の草取りや校門周辺の掃き掃除の活動が生まれた。

○学校だけでなく、スーパーや道で会った時にも、自然に「こんにちは」「さようなら」のあいさつが交わされるようになった。

⑤染井野ふれあいサロン

○町内会と相談し、サロン時に使う道具類収納のための倉庫設置を庭横に設置した。

○サロン時の食器・スリッパ・机等は集会所備品とし、町内会と共有することになった。

○毎年入れ替えとなってしまう町内会集会所委員の方々が、サロンについて引継ぎ申し送りをしてくれるようになった。地域の方々の作品展示を行うピクチャーレールを取り付けさせてほしいと数年お願いしていたが、集会所備品として設置して頂けた。

⑥台町子ども見守り隊

○「臼井ふるさとづくり協議会」の防犯交通部会を通じ、臼井小学校区内の町会・自治会・区の「子ども見守り隊」、「臼井小学校」、PTAが連携し、年3回、意見交換を行い、情報共有している。

○台町では、毎年5月に地域の会館で新1年生・保護者と見守り隊との顔合わせや交流会を実施。下校時、臼井西中生徒との挨拶も生徒の方からしてくる様子が多々見られるようになった。

○臼井小学校区での犯罪発生件数の大幅な減少や不審者が出にくいことは、子ども見守り活動や防犯活動の連携がその一翼を担っていると思われる。

⑥いきいきクラブたぐり

○創設15年目を迎え、高齢者のたまり場・憩いの場として地域に定着。4町会の協賛するボランティア活動でもあり、他のボランティア活動にも好循環がでている。

①ねっこの会

○対象者も広がり、スタッフも地域の中で探して、元教師など協力を得られた（3人）。

- 「ねっこ食堂」のスタッフも、地域で活動している「むぎの会」「食生活改善推進員」、食堂の手伝いならと地域の方の協力も得られた（10人）。
- 民生・児童委員がいろいろなボランティア団体に参加していることが人材発掘に繋がる。
- 地域の社会福祉法人「愛光」より、地域貢献として、助成・応援。
- チラシを作成したことで、公民館に連絡があり、親子で「ねっこ食堂」に参加。
- 「ねっこ食堂」の食材について、地域の農家、フードバンク、市社協、まち協農園から寄付。

③佐倉地域包括支援センター

- 住民主体の健康づくりの活動が多機関と連携した場づくりと発展。

【住民主体の運動組織立ち上げの経緯・後方支援】

平成27年度より、地域住民組織（ローズクラブ）から、認知症予防の学習や予防運動の教室立ち上げの相談を受け、地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みとして支援。

④笑いヨガ・ミュージック

- 高齢者に加えて、認知症オレンジカフェや高次脳機能障害者のご家族が笑顔にと依頼を受け、活動の輪が広がっている。

⑤志津ふれ愛センター・しづっ子クラブ

- ふれ愛サービスは、利用登録者数も増え、利用件数も増加しており、確実に定着している。学習支援とこども食堂については、活動が広がるまでにまだ時間がかかる見込み。

■参加の方法及び参加のきっかけ作り

各団体、参加者を増やすことに苦勞している中、それに対する取組の一部を紹介します。

③なごみ会

○町内会に回覧し呼びかけたが、なかなか入会につながらないため、会員が個々に声かけ。

④根郷地区民生委員・児童委員協議会

○各種団体の集まりの中で、それぞれの地区の状況や活動を紹介し、参加を呼びかけ。

⑥台町子ども見守り隊

○見守り隊のメンバーが経験に基づき、見守り活動の楽しさ（社会参加）を隣人・知人等に語る。
町会の回覧等でも呼びかけ。

⑥いきいきクラブたぐり

○回覧等で募集して効果があまりないことから、会員による、いわゆる「一本釣り」が現実的。

③佐倉地域包括支援センター

○地域に出向いて運動の場の紹介。現在の参加者による口コミ。
○相談窓口や地域包括支援センターの広報誌による紹介。

④笑いヨガ・ミュージック

○チラシの配布や口コミ。施設の方が利用者を連れて来て参加。

⑤志津ふれ愛センター・しづっ子クラブ

○個人的な関係を通じて、友人や知人の参加を誘う方法が最も確実。
○ビラの配布による宣伝と共に関係者による個人的な勧誘に力を入れる。

■関係機関・協力団体・連携団体など

各団体とも、様々な関係機関などと連携していますので、その一部を紹介します。

③なごみ会

○佐倉地域包括支援センター。○栄町町内会。○子ども会。○民生委員・児童委員。

④根郷地区民生委員・児童委員協議会

○学校でのふれあいボランティア。○まちづくり協議会の青色パトロール。
○各地区防犯パトロール（スクールガードボランティア）。○小学校・PTA。
○学区の自治会、各種団体。○佐倉市防犯ネットワーク会議。○根郷小学校区まちづくり協議会。
○佐倉警察署。○市危機管理室。

⑥台町子ども見守り隊

○臼井ふるさとづくり協議会（通称「臼井まち協」）。「台町子ども見守り隊と各町会の見守り隊」。
○臼井小学校。○臼井小学校PTA。○臼井西中学校。○市自治人権推進課・危機管理室。
○佐倉警察署。○佐倉警察署管内防犯組合連合会。

⑥いきいきクラブたぐり

○臼井・千代田地域包括支援センター。○佐倉警察署移動交番。○臼井西中学校。○食生活改善推進員。○各ボランティアグループ（例：笑いヨガ・ミュージック、民話：さくらっ古、台町踊りの会：弥喜の会、二胡の会、台町：ひのき太鼓、手話ダンスの会、福祉劇団 榮ちゃん一座 等）

⑦佐倉市手をつなぐ育成会

○順天堂大学。○佐倉東部地区社会福祉協議会。○手をつなぐさくら。○市障害福祉課。

①ねっこの会

○市社協（生活困窮者自立支援等）。○根郷地区社協。○小中学校。○根郷地区民児協。○青少年育成住民会議。○まちづくり協議会。○社会福祉法人「愛光」。○地域の農家。○食生活改善推進員。○配食サービス「むぎの会」。○元教師。○市行政（児童青少年課、社会福祉課等）。

③佐倉地域包括支援センター

○介護予防リーダー（佐倉市養成）や病院の介護予防チーム。○地区社会福祉協議会。○自治会。

④笑いヨガ・ミュージック

○市高齢者福祉課。○志津南部地域包括支援センター。○西部地域福祉センター。
○佐倉市ボランティアセンター。

■課題と今後の展開

それぞれの活動を継続する中で生じる課題とそれに対する取組の一部を紹介します。

①西志津スポーツ広場の会

- お互いに自由な時間を大切にし、人と人とのつながりを大事にしてゆく。
- 引きこもりがちの高齢者に朝早く起きて一人でも多くラジオ体操に参加してもらえるように。

②佐倉子育て応援団

- もう少し気楽に付き合える近所付き合い、近所同士の声掛けみたいなものがあれば。
- お父さんが積極的に子育て・地域にかかわってもらって、繋がりが広がっていけば良い。
- 設立当初のメンバーは、常勤の仕事に就いているなど、環境が変化し、負担感がある。
- 携帯電話等とりまく環境の変化。新聞を取っていない方、市の広報を見ない方もいる。ネット等（例：子育てアプリ）で情報がいきわたるよう期待。
- 会員外の参加可能な学習会で、保育をつけているが、保育者確保や保育場所などを考慮すると、多くの参加者を受け入れることはできない。

③なごみ会

- 若い方の入会と交流ができると良いが、現状は難しい。高齢者の方も気軽に入会できるように。
- 入会の呼びかけをしても、入会に結びつくのは数年かけて数人に一人。
- 個人情報を守るため町内会員に話せない点が、「活動が見えない」につながる。
- 町内会だけの募集では会員減少は目に見えている。今後どう広げていくかが課題。

④根郷地区民生委員・児童委員協議会

- 各地区で活動にばらつきがあるので、根郷地区全域に活動を普及させていきたい。
- 民児協だけでは限界。根郷小学校区はまち協ができた。近隣の地域とも協力していきたい。
- 学校、家庭、地域が必要な情報を共有できるネットワーク（例：安全対策会議等）の構築。
- 見守りも重要だが、子どもたち自身が自分で身を守ることの大事さを学ぶ研修会の実施。

⑤染井野ふれあいサロン

- サロンに来ている方が来ないと、名札で出席を取っているので、気になったりする。見守りという訳ではないが、いずれそういう機能を持つようになるかもと。
- 若い世代のボランティアが参加してこそ継続性が担保できるので、参加してきて欲しい。
- ボランティアの高齢化。来訪者と年齢が同じになり、体調不良などで休む人が増えた。若いボランティアが入らない。自分の意志で参加されることが一番なので、募集は常に行っているが強引に誘うことはしていない。どうしても続けていくというよりは、楽にできる方向で。

⑥台町子ども見守り隊

- 「高齢化」がボランティア活動維持を阻害されがちであるが、高齢化をプラス思考に捉え、元気な高齢者が子どもたちの安全・安心確保の一翼を担う気構えをもって見守り活動を推進したい。

⑥いきいきクラブたぐり

- 75才以上の方も、ボランティアとして参加している人も一律に「会員」として登録。区別なく共に楽しむことを心がけ、さらに高齢者と若いボランティア会員を募っていきたい。

⑦佐倉市手をつなぐ育成会

- 自分達の仲間を作りながら、なおかつ地域にもオープンにしていって、手伝って欲しいと気軽に言えるような会でありたい。

③佐倉地域包括支援センター

- 場所と協力者が必要。学校・公共施設や商店など、商工会議所やあらゆる組織等に理解と協力を求める必要がある。

④笑いヨガ・ミュージック

- 介護予防という視点から、一般高齢者向けの活動を無理のない範囲で増やしていきたい。

⑤志津ふれ愛センター・しづっ子クラブ

- スタッフの高齢化、どうスタッフを確保していくかが課題。
- しづっ子クラブの活動を軌道に乗せることが課題である。特にこども食堂は、対象者を限定しないで、焦らず根気よく、且つ広範に努力することが必要。

⑥佐倉市こおろぎの会

- 高齢や家族の事情などで、退会する会員もいるが、若い会員も少しずつ増えてきている。
- 録音技術の進歩に遅れないよう、勉強会も必要。
- 新会員の獲得が課題。現在は会員の紹介で増えている。利用者も高齢化しているため、障害福祉課の窓口を新たに訪れる視覚障害者へ会の活動を知らせるチラシを配ってもらっている。